

2023.9.21 (木)
第11回例会
(通算3726回)

2023-2024 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第85代会長 後藤 公貴
副会長 樋口 貴広
幹事 佐藤 貴之
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2023-2024 年度
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう
2023-2024 年度
RI会長 ゴードン R. マッキナリー
第2500地区ガバナー
鶴見 誠一郎 (紋別港 RC)

月間テーマ

基本的教育と識字率向上月間

本日のプログラム

「清水幸彦パストガバナーを偲んで」(理事会)

次週例会

講師例会「川湯温泉の再開発について」(プログラム委員会)

- ロータリーソング：我らの生業
- ソングリーダー：浅野 清貴君
- 会員数 103名
- ビジター
- ゲスト

会長の時間

後藤 公貴会長

皆さま、こんばんは。本日は『故清水幸彦君を偲んで』という故人を追悼する例会となっております。私がいろいろな方にお聞きしたところ、



会員・故人を追悼する趣旨の例会は恐らく初めてだろうというのが私の認識であります。

皆さま、ご存じのとおり清水幸彦君は、この地域医療への貢献、また地域社会への奉仕活動への足跡、そしてロータリークラブではこの釧路ロータリークラブはもちろん、国際ロータリー、そして第2500地区に、財団への寄付などなど大きな輝きを残していただいたと私は考えております。

そんな私の思いを理事会の皆さまにお伝えをさせていただいて、理事会にご承認いただき、本日この日を迎えているところであります。

本日はぜひ、清水幸彦君とのさまざまな思い出を語り合う時間に、そしてあまり清水先生と交流がなかったという方にはベテランメンバーの皆さまから、こういったお人柄だったのですよ、こういったエピソードがあったよ、というようなことをお聞きになっていただいて、ロータリー活動の糧にさせていただければ幸いです。

本日は通常2時間ほどの夜間例会となっておりますが、30分ほど時間を短縮して大きな催しもせず、ぜひ個人との思い出やロータリーについて語り合う時間にしていただければと思います。

おそらく清水先生は、湿っぽい時間はあまりお好みにならないのではないかと思います。笑顔で楽しい時間を清水先生と一緒に過ごしていただける、そんな時間にしていただければ幸いです。

限られた時間ではありますが、本日一日、どうぞよろしくお願い申し上げます。

幹事報告 佐藤 貴之幹事

皆さん、こんばんは。幹事報告になります。先週ご案内いたしました「台北中央ロータリークラブ周年祝賀会」の追加のご案内となります。先週ですが、私の言葉足らず、説明不足が多くて、大変不安に思う方が多くいらっしゃいましたので、私では少し不安ということで、工藤国際奉仕委員長に改めまして推奨案を作成していただきました。皆さまにもこの推奨案を先週ご案内させていただいております。

今の物価上昇、もしくは円安ということで、団体ツアーはどうしても高額となってしまいますので、基本的にはホテルと航空チケットは各自でご手配をお願いするところは変わっておりません。

本来は、釧路から台北へみんなで開催しようという基本的な思いは例年と変わりありません。ぜひお時間の

ご都合つく方は工藤委員長が作成してくれた推奨案を見ていただいて、飛行機とホテルのチケットを手配していただければと思っております。

また今年度、台北中央ロータリーから釧路クラブに「余興をやってくれ」というリクエストも来ております。ぜひ皆さま、多くのご参加いただきまして台北中央ロータリークラブに参加をしたいと思っております。皆さま、多くのご参加をぜひよろしくお願いいたします。幹事報告は以上となります。

■本日のプログラム■ 「清水幸彦パストガバナーを偲んで」

クラブ運営委員長 得地 哉委員長

これより釧路ロータリークラブ会員『故 清水幸彦パストガバナーを偲んで』を行います。ここで改めまして、清水幸彦パストガバナーに謹んで哀悼の意を表し、黙とうを捧げたいと思います。皆さま、ご起立ください。



(黙とう)

黙とうを終わります。皆さまご着席ください。

続きまして、後藤公貴会長よりクラブを代表して、故清水幸彦君への追悼の言葉を述べさせていただきます。

追悼の言葉 後藤 公貴会長

清水幸彦君、昭和4年1月1日、この世に生を受け、宿命であった医療の道を志し、市立釧路総合病院精神神経科医長として運命ともいえる当地・釧路への赴任。そして昭和39年には清水桜ヶ岡病院の開設。そこから始まる地域医療発展への貢献はもとより、更生保護事業・社会福祉・スポーツ振興・民間外交などその功績は枚挙にいとまがなく、さまざまな奉仕活動を通じて、まさに世のため、人のために使命としてその生涯を捧げてこられました。

1965年10月7日、金子重徳君、渡辺泰男君の推薦を受け、釧路ロータリークラブへご入会。入会申込書に書かれた趣味は、山歩き・スキー・スケートそしてお酒少量、となっております。



1971-1972年度クラブ幹事、1973-1974年度クラブ副会長、1974-1975年度45歳の時、当時は昭和生まれで初めてのクラブ会長にご就任。クラブスローガンは「釧路ロータリークラブの水準を全般的に向上させよう」でした。会員数は114名であったそうです。1979-1980年度国際ロータリー第250地区第7分区分区代理に就任。1981-1982年度52歳で国際ロータリー第250地区ガバナーへ就任。

以降、R Iや2500地区の要職を歴任され、国際大会へは16年連続でご参加するなどロータリー活動においても多大な足跡を残されました。

さまざまな見識の中から、多くの後輩ロータリアンに経験談やロータリーを楽しむことの喜びを語って下さった方でありましたが、「あしなさい、こうしなさい」といった命令や指図をされることは決してなかった」と小船井修一パストガバナーが追悼文の中で語られております。

故人のそんな人柄や奥ゆかしさは、きっと釧路ロータリークラブの仲間の中ではぐくまれ、今もなお、私の感じるこのクラブの清々しさとして脈々と流れ続けていると感じます。私たちの活動は地域社会への奉仕とともに未来永劫続いております。われわれに多くの学びと気付きを与えていただいた清水幸彦君への恩返しは、故人のロータリー愛を忘れず、釧路ロータリークラブへの歴史と伝統を後世に紡いでいくこと他ありません。

この場でその決意を新たにしましょう。本日は特別な催しは設けておりません。清水幸彦君が愛してやまなかったこのクラブの雰囲気の中で、個人の好きだったお酒とともに思い出を語り合う時間にしてまいりたいと思います。

宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える本年6月5日ご逝去、享年94歳。充実されたであろう天寿を全うされた清水幸彦君のご冥福を改めてお祈りし、哀悼の意を表し結びといたします。

今夜は清水先生と一緒に多くを語り合ひましょう。

クラブ運営委員長 得地 哉委員長

ありがとうございました。続きまして、献杯を行います。

献杯のご発声を吉田潤司パストガバナー、よろしくお願ひいたします。吉田潤司パストガバナーはご登壇ください。

なお今夜は、清水幸彦パストガバナーのお好きだったワインで献杯したいと思います。

献杯のご発声 吉田 潤司パストガバナー

皆さん、こんばんは。今日は先生を偲ぶ例会に皆さんお集まりいただきまして本当にありがとうございました。

と言われまして、うちの女房も「先生がそう言ったんだから、あんたはあきらめなさい。辞めるとか言わないで、やりなさい！」と言われ、やってよかったなと思っています。先生が本当に最後に上手く繋げたこと、ありがたいなと思います。

多分、先生は今ごろ天国で「釧路クラブよ、また不毛の10年、そういうのを作らないでくれ」言っていると思うのです。

ガバナーはまた第7分区からも選ばなきゃいけない時期がもうすぐ来ます。多分4～5年でうちのクラブかどうかは別問題としても、なります。そういう時のためにもぜひ準備をしていただきたいなと思います。いずれにしても、先生はロータリーをこよなく愛して、釧路クラブをこよなく愛した人です。先生は何を聞いても、聞いたら全部教えてくれる方なのですが、絶対、自分の方から「ああせ、こうせ」とは一言も言わない方で、心の中には「釧路クラブよ、元気をもって2500地区のリーダーになってほしい」といつも言っていたと思います。先生がどういう釧路クラブになって欲しいか、ホントはそういう例会を開いて「先生の釧路クラブへの希望や願いはなにか」という例会があれば良かった。ただ、そういう例会を作っても、そういう話は何も言わなかったと思います。先生はそういう方だったと思います。最後までいつも釧路クラブを温かく見ていてくれました。

その裏で、先生の熱い思いがあったということをおさま覚えていただきまして、うちのクラブが今のようが良いクラブで、元気のいいクラブであれば2500地区で必ずずっとリーダーでいれると思います。クラブにそういう意味で負けないように、これからも行ければと思います。どうぞ皆さん、先生の気持ちを汲んでお願いをしたいと思います。

それでは献杯をしたいと思います。

「献杯」と言いますので、先生に「ありがとうございました」ということで応対してもらえればと思います。では、献杯。

(献杯)

ありがとうございました。

クラブ運営委員長 得地 哉委員長

ありがとうございました。これより7月25日に執り行われました。お別れの会にて上映されました故人の生前のご活躍を収めた映像をご覧ください。スクリーンをご覧ください。

(お別れの会にて上映された故人の生前の活躍)

それでは、ここで清水幸彦がバナーとゆかりのあった方々のうち、お二方よりご挨拶をいただきたいと思えます。

はじめに、小船井修一パストガバナー、よろしくお願ひします。小船井パストガバナー、ご登壇ください。

小船井修一パストガバナー



清水幸彦会員の横顔ということで皆さん見ておられると思います。その中で追加の情報を私の方で調べてまいりましたのでお伝えしたいと思います。

清水先生は、釧路の人ではなくて小樽の人です。旧制の小樽中学校、今の小樽潮陵高校、ここ名門ですよ。その小樽中学校を卒業され、卒業は北海道大学ですが、入学は北海道帝国大学医学部です。戦争時代は、専門部というのがあったのです。専門部と医学部は違まして、専門部は4年か5年で終わるはずなのですが、医学部は6年。先生はエリートでありました。

先生のロータリーの業績はさまざまありますが、私が把握しているお話を申しあげたいと思います。会長代理って、皆さんご存知でしょうか。地区大会で、偉そうに国際ロータリーの現況報告というスピーチをする方です。今の国際ロータリーの会長のリ・プレゼンティブ代理として登壇される方です。今年、橋岡久太郎という能の家元、千葉の人でパストガバナーが紋別の地区大会の会長代理です。先生は会長代理を2回やられています。しかし、2回は断っているのですよ。合計4回、パストガバナーとして会長代理をする機会がありましたが、2回断っています。それは私が先生から直接聞きましたが、フィリピンともう1カ国、たぶん韓国だったと思います。海外のセブ地区大会だったので「私、お断りしました」と。断ったものを含めて4回の会長代理を経験、というかそういうチャンスがありました。

もうひとつ、ガバナーが1981年ですからその4～5年後、86年、87年だと思います。国際協議会というのは皆さんご存じのとおり、ガバナーエレクトがガバナーになるために研修を1週間、その1980年代は8日間の研修をガバナーエレクトは受けますが、その当時フロリダで1981年にやっておりました。多分エバンストンの近くでの国際協議会だったと思います。清水先生は国際協議会の研修リーダー。国際協議会の研修リーダーというのは世界で532の地区がある中で34名が研修リーダーとして世界中から選ばれて、日本からは3名ないし4名が選ばれます。国際ロータリーの研修リーダーとしてはこの地区内では歴史上では4人しかおりません。その中の1人は道下先生、私とか足立先生は別として、たった4人しかいないということです。

それから、これは2つあるのですが、自費で行かないといけない会合が3つあります。世界大会、ロータリー研究会、それから7月に開催されるガバナー・ガバナー

エレクト・ガバナーノミニ懇談会の3つの全世界的な会合です。私の記憶では、先生は世界大会に35回くらい行っていると思います。

そして、もっとすごいのは、国際大会は5日間やるのです。その中で皆出席しています。初日から最後までいる。それは旅行代理店の添乗員から「清水先生は最後までいますよ」と必ず聞きます。私は1日目に行って2日目はいないという状況でズボラな者なのですが、こういう意味では先生はすごい経験をされていると思います。

それからもうひとつ、公的な立場として、1992年だと思います。フランスのコート・ダジュールの先にあるイタリアと隣国のモナコという国があるのです。そこで開催された規定審議会（COL）の地区の代表議員としてモナコで1週間参加されています。

もうひとつお話し申し上げておきたいのが、清水幸彦先生はロータリー財団に（大山さん、どれぐらい寄付していたっけ）15万ドルくらいかもしれない。私は何かの関係でもうちょっとなのですが、うちの地区では清水幸彦先生が最初の10万ドルを超えたメジャードナーだったことも皆さま、ご記憶していただければ幸いです。

そういう意味で本当に国際ロータリーの中でも活躍され、真面目に。そして、知っていますか、いつもポケットに寝酒のウィスキーの瓶を入れているのです。世界に行くときも日本国内旅行するにしても、寝酒でポケットのウィスキーを飲みながら常に真面目に参加していただいた清水先生を偲びながら、皆さん次の地区大会ではちゃんと最後までいてください。

私は途中で帰りますけれどね。そういうところを報告させていただいて、清水先生の真面目さと同時に自費で活動するというのはすごく尊敬しているのです。というのは、他人のお金で動くパストガバナーがいっぱいいるのです。それは、われわれのクラブじゃないですよ。簡単に言ったら「地区の金でどこかに行きたい」「今度は韓国に行く、だったら地区の金を出せ」とか、そういう中で清水先生は自費でしっかりと秩序を持ちながら、ロータリアンとして全うしたことを私は尊敬しながら、皆さまと一緒に今日偲びたいと思います。ご清聴ありがとうございます。

釧路ロータリー事務局員 大山 葉子さん

さっきから心が飛び出そうです。たくさん思い出があったはずなのですが考えてみて、私の記憶の許容量が少ないのと、過去を振り返りたくない願望の下、特にお話できるエピソードを思



い出せないまま、ここに立っております。幹事からは「ダラダラで良い」とお許しをいただいているのでよろしく願いいたします。

まず思い出すのは、夜間例会でお酒があるときは、遠い席からでもいつもニコニコしながら私の席に日本酒を持って注ぎに来てくれました。これが一番の思い出です。おいしいお酒をたっぷりいただいて、飲ませていただいたので今は「酒豪」の称号をもらいました。

皆さんも知っていると思いますが、先生はいつもおしゃれで、スマートです。二次会や委員会などで会費徴収の時に「会費をいただきます」と行くと、とっても高級なスーツの内ポケットからすごくくたびれた封筒が出てくるのです。その封筒の中から会費を払ってくれるのですが、それがいつもお財布をお持ちではなくて、よれよれの封筒にお金を入れて来る。そのギャップがすごく、素敵だなと反対に思っちゃいました。

それから皆さんも思っていると思います。清水先生の記憶力のすごさだと思います。いつ、どこの会かは覚えていないのですが、先生が急なご指名で壇上に立たれてご挨拶をした時に、すぐに「19〇〇年のどこで、どこそこの会長が、こう仰いました」。そして英語でパラパラとスピーチをして、その役をササッと行って、それにすごくビックリして。

若い方は知らないと思いますが、帝人の会長で大屋政子さんという超ミニのスカートをはいて、甲高い声で「うちの父ちゃんはね」としゃべるおばちゃんがテレビに出ていて、その人が黒柳徹子さんの「徹子の部屋」の時に、「どこそこの国の、誰それという国王と19〇〇年に会って、こんな話をした」というのをテレビ見ていると、子どものころに「何だ、このおばちゃん、ただ者じゃないな」と思ったことがありました。清水先生がその時に仰ったことを見て、「また、こういう人に出会ってしまった」みたいな感じで、それ以来の衝撃と驚きでした。

さらに、尾越さんが会長の時に、台北中央ロータリークラブと友好クラブ締結をして台湾にご一緒させていただいたことがあって、泊まったホテルで朝食の時の雑談の中で、清水先生が「このホテルは何年前に泊まったことがあって、僕は何階の〇〇号室だったね」と言ったのです。ええーと思って。私なんか、帰る途中で部屋の何号室かなんかもすっかり記憶から忘れていて、なにか物を忘れてホテルに電話したら、ホテルの人から「何号室にお泊りですか」と聞かれてあたふたして、私は何号室に泊まったの、みたいな感じなのですが、清水先生の記憶力がすごいなと思いました。ですが昨日、たまたま工藤さんが事務局に来られて、「清水先生の記憶力がすごかったですよね」と話をした時に、工藤さんが「いや」って言いました。先ほどの追悼のビデオを作る時に、アルバムをお借りして編集したのだけでも、そのアルバムは、いろいろな

写真にしっかり「何年の、何処で撮影したもの」というメモ書きがあって、そのアルバムも何回も開いた跡があるように角が取れているアルバムだったので、それなりに清水先生はきっと復習していたんだと思う、と仰っていたのです。

改めて清水先生って、ただの天才じゃなく、努力もされていた方なのだな、とつくづく感じました。素晴らしい方だったなと思います。

短いのですが、これが私の中の清水先生です。皆さんそれぞれに、清水先生との思い出もあり、それがすべて清水先生なのだと思います。

拙いお話ですがこれで私お話は終わらせていただきます。失礼します。

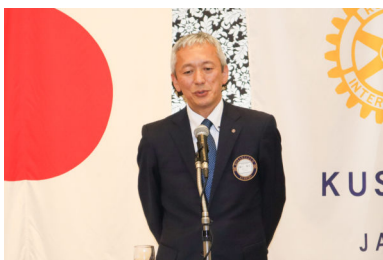
クラブ運営委員長 得地 哉委員長

清水幸彦パストガバナーとの思い出も尽きないと思いますが、そろそろ時間となりました。最後に「手を手をつないで」で清水幸彦パストガバナーをお送りしたいと思います。皆さま正面ステージに向かって清水幸彦パストガバナーを囲むように半円形になって手をつないでください。よろしく願いいたします。円じゃなく、半円形で囲むようにお願いします。

(手を手をつないで)

閉会の言葉 樋口 貴広副会長

私がロータリーに入会して間もなくです。その時、ロータリーのことはもちろん何も知らなかったです。年齢的にもまだ若かったのですけれど、そんな私にでも、清水先生は優しく話しかけてくれました。その後、私もロータリーの役割を担うようになりますと、清水先生は「樋口さん、お疲れさまです」「樋口さん、ありがとうございます」とねぎらいの言葉をかけてくださいました。そんな先生がいたからこそ、この釧路クラブがなんとも居心地のいいクラブであるのではないかと考えています。



私は、残念ながら清水先生のようなロータリアンにはなれないと考えております。ですが、この釧路クラブの雰囲気、そして居心地の良さを守り、今後につなげていくことはできると思っております。

改めまして、清水幸彦パストガバナーへの感謝を申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈りして私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

改めまして、清水幸彦パストガバナーへの感謝を申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈りして私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

クラブ運営委員長 得地 哉委員長

ありがとうございました。これをもちまして「釧路ロー

タリークラブ会員・故 清水幸彦君を偲んで」を閉会いたします。

皆さま、本日は誠にありがとうございました。

